

校長室の窓から

## 「小さいからこそ」

大相撲の十両に「宇良（うら）関」というお相撲さんがいます。入門して1年と少しで今の地位へスピード出世。5月場所も○勝○敗の好成績で終えました。その宇良さんの話です。一人前に生活できる十両以上の力士の平均身長は184cm、平均体重は162kgとなってますが、宇良さんは173cmで127kgです。ですからこの世界ではずいぶん小柄な体格だと言えます。

京都府の府立鳥羽高等学校に入学したときの宇良さんは体重が60kgそこそこ。普通より小さな高校生でした。初めて高校の土俵で稽古したときに、こんなエピソードが残っています。高校の校長先生が、今年はどんな楽しみな部員が入部してくれたかなと、相撲部の稽古を見学に行かれたときのことです。

「かわいい子が稽古しているね。誰の弟さんが一緒に稽古しているのかな？」と、顧問の先生に質問。「いや～彼は一応本校の新入生でして…」と顧問の先生は苦笑されたそうです。

相撲界で強豪の鳥羽高校で、体格に恵まれない宇良さんはかなり苦労をされました。「自分は大会に出してもらえるようになるだろうか…」それでも稽古については誰よりも熱心に取り組み、インターハイや国体に出場できるようになりました。

そして大学に進学…教員免許も取得しながら1年生の時には体重別選手権の65kg未満級で優勝。4年生では無差別級で第3位に入賞しています。そしてプロの相撲界に入ったのです。

「自分は身体が小さいから、どうやったら相手に勝てるか、そのためになんか稽古をしたらいいかを常に考え、実践しています。」宇良さんの言葉です。

この5月場所ではいくつも印象的な相撲がありました。そのうちの、ある一番では相手と投げの打ち合いになり、先に手をつかか身体が落ちた方が負けというきわどい勝負になりました。宇良さんは手も顔も土俵につかず、なんと空中で125kgの身体を丸めて一回転させました。その間に相手が土俵に崩れて勝ったという相撲です。

宇良さんの言葉…どうしたらいいかを常に考え、実践する。言うことは簡単かもしれませんのがなかなかできるものではありません。これからも応援し続けるとともに、その考え方方に学び、自分にも言い聞かせ、少しでも実行したいと思っています。

